

第1回 第2期練馬区スポーツ振興基本計画策定懇談会 会議要録

■日時 平成25年7月31日(水) 6:30～

■会場 練馬区役所本庁舎9階 901会議室

■出席者 (委員 18名)

早稲田大学スポーツ科学学術院准教授	作野 誠一
筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学系教授	柳沢 和雄
公益社団法人練馬区体育協会	石川 正子
練馬区スポーツ推進委員会	石塚 利郎
総合型地域スポーツクラブ	茨田 忍
練馬区レクリエーション協会	牧 真一
練馬区立中学校校長会	赤木 宏行
練馬区立小学校校長会	早川 一秀
練馬区立中学校PTA連合協議会	青柳 直美
練馬区小学校PTA連合協議会	柁 博光
練馬区町会連合会	岡村 宏平
練馬区老人クラブ連合会	重田 栄
練馬区障害者団体連合会	的野 碩郎
公募区民	鎌田 康男
公募区民	長井 詳典
公募区民	古尾谷 均
公募区民	宮崎 英孝
公募区民	山中 康弘

(練馬区区民生活事業本部 スポーツ振興課)

地域文化部長、スポーツ振興課長

(練馬区スポーツ振興基本計画策定懇談会事務局)

スポーツ振興課職員 2名

(支援事業者)

株式会社創建 2名

■欠席者 なし

■傍聴者 なし

- 議 事
- 1 委員委嘱式
 - 2 地域文化部長あいさつ
 - 3 委員自己紹介
 - 4 事務局自己紹介
 - 5 座長・副座長の選出
 - 6 座長・副座長あいさつ
 - 7 第2期練馬区スポーツ振興基本計画の策定について
 - (1) 策定の趣旨等 資料1
 - (2) 懇談会の進め方・スケジュール 資料2
 - 8 区民意識意向調査の実施について 資料3
 - 9 スポーツを取り巻く環境および現状と課題について 資料4
 - 10 その他
 - (1) 次回の懇談会の日程等
日時：10月4日（金）午後6時30分～8時30分
会場：本庁舎19階1905会議室
 - (2) その他

- 配布資料
- 資料1 第2期練馬区スポーツ振興基本計画の策定について
 - 資料2 第2期練馬区スポーツ振興基本計画策定スケジュール
 - 資料3 区民意識意向調査の実施について
 - 資料4 スポーツを取り巻く環境および現状と課題
 - 資料5 第2期練馬区スポーツ振興基本計画策定懇談会委員名簿

■要 旨

1. 委員委嘱式

地域文化部長より、次第に沿い委員の委嘱が行われた。

2. 地域文化部長あいさつ

地域文化部長よりあいさつが行われた。

3. 委員自己紹介、4. 事務局自己紹介

懇談会委員より自己紹介が行われた。

続いて、事務局より自己紹介が行われた。

5. 座長・副座長の選出、6. 座長・副座長あいさつ

委員より事務局一任の声をいただき、各委員よりご賛同いただいたため、事務局より筑波大学大学院柳沢和雄委員を座長に選出し、早稲田大学作野誠一委員を副座長として選出された。

筑波大学大学院柳沢和雄より座長選出にあたりあいさつが行われた。

早稲田大学作野誠一委員より副座長選出にあたりあいさつが行われた。

事務局より以後の進行が座長に一任された。

7. 第2期練馬区スポーツ振興基本計画の策定について

(座 長) 次第7について事務局に説明を求める。

(事務局) 配布資料の確認の後、次第7、資料1、資料2について説明。

(座 長) 資料1、資料2について質問はあるか。

(委 員) 第1期の計画から引き継ぐ事項、課題はあるのか。

(事務局) 平成23年度に中間評価を行っている。また、現在、関係各課へ事業評価の確認を行っている。第2回の懇談会で資料を提示する。

(委 員) 課題や引き継ぎ事項の他、新たな視点も加わってくるのではないか。

(委 員) 五輪招致の結果は計画に影響するのか。

(座 長) 現段階ではスケジュールをみると、直接何かを反映させることは難しい。あくまで練馬区民をベースとした計画を考えていく。場合によっては五輪のようなトップレベルのスポーツにフォーカスすることもあると思うが、それに伴うハード面での整備も合わせて、様子を見ていく。

8. 区民意識意向調査の実施について

(座 長) 次第8について事務局に説明を求める。

(事業者) 次第8、資料3について説明。

(座 長) 第1期の計画との比較をベースに設問が設定されている。その他、スポーツを行う環境・意識、スポーツをしていない人のニーズ、新たな課題の抽出を目的としている。

(委 員) 調査対象者の抽出はどのような方法なのか。

(事務局) 前回の計画策定時と同様に、練馬区内17地区より、層化二段無作為抽出法にて満遍な

く抽出している。

(委員) 想定回収率は40%とのことだが、スポーツに関心がない人の返送率は低いと思う。そのあたりを考慮してほしい。

(座長) 今後、調査結果を整理する際に検討したい。

(委員) 民間のスポーツ活動を活発にするために、英国のクラブ組織を参考にするとよいと思う。日本的な活動の仕方だけではなく、海外のクラブ経営を参考に研究してほしい。

(座長) 諸外国のスポーツクラブの経営方法・仕組みを研究してほしいということか。総合型地域スポーツクラブのスタート時にも考慮しているが、例えば、総合型地域スポーツクラブにレストランを併設することは難しい。

(委員) 民間のスポーツクラブでは重要になってくると思う。

(座長) 非営利団体についてはどうか。

(委員) そこは、税制面を含めて区がサポートできる施策を検討してほしい。

(座長) 座長、副座長の宿題とする。

(委員) 調査票の回収率の向上のために何か工夫を行っているのか。

(事務局) 回収率の向上に向け、督促状兼お礼状の発送を予定している。

(委員) お礼について、次回以降はプレゼントなども配慮してほしい。

(事務局) 予算などと合わせて検討する。

(委員) この調査票では、対象者の家族構成がわかる設問となっているのか。

(事務局) 家族構成まではわからない。

練馬区小学校 PTA 連合協議会 榎委員が入室し、委嘱状の交付、自己紹介が行われた。

9. スポーツを取り巻く環境および現状と課題について

(座長) 次第9について事務局に説明を求める。

(事業者) 次第9、資料4について説明。

(委員) 練馬区では障害者でも積極的にスポーツを楽しむ人が増えてきているが、ハード面での整備や、受け入れ態勢がまだ整っていないとは言えない。ボランティアや仲間づくりは障害者側から声をかけていくことはなかなか難しい。練馬区として、区民に障害者スポーツを理解する場づくりに力を入れてほしい。

(座長) 障害者スポーツを自立的に取り組める環境の整備とその支援を区に求めるということでしょうか。

(委員) 調査対象者を「練馬区在住の満20歳以上の区民」としているが、今後の課題を考えるにあたり、小中高生等の子どもについてはどう扱っていくのか。

(事務局) 国と東京都のスポーツ実施率の比較を行うために満20歳以上としている。子どもについては、中学校等で個別にアンケートの実施を検討している。改めて相談させてほしい。現行の計画では、教育指導課と協力し、データを提供いただいている。

(委員) 学校体育では学習指導要領の中で生涯スポーツもある。

(座長) 子どもについては現行の計画で個別のデータがないため比較はできないが、実態の把握については検討したい。

子どものスポーツライフについて今回の計画でふれるということによいか。

(委員) 学校で行われている体力・運動能力、運動習慣等調査のデータも今回の計画で活用してよいと思う。

(座長) そのあたりのデータを事務局で整理してほしい。

(委員) 現在は、元気な人がスポーツをしている。障害者と交流できる場をつくることはできないか。地域の運動弱者への配慮、ボランティアの場づくりが必要である。

(座長) たしかに、地域の人材との交流の機会を設ける必要がある。

(委員) 練馬区に7つの体育館があるが、まだ街中に杖をついた高齢者も多い。元気な年寄りを増やすために、もっと気軽に足を運べる施設、軽い運動ができるスペースを増やしてほしい。

(委員) 80代で運動を行う人もいる。

障害者と一緒にスポーツをするのはいきなりでは難しいと思うので、しっかりとした指導者を確保する必要がある。親子で楽しめるスポーツとしては、少年少女スポーツふれあいひろば等の事業を実施しているが、人が来ないために指導者が余ることがある。そこをうまく回す方法を考えたい。

(座長) 専門性の高い指導者の育成も重要である。

(委員) 怪我の危険性があるので、そこはしっかりと取り組む必要がある。

(委員) 練馬区のスポーツ推進委員会では東京都障害者総合スポーツセンターで、障害者スポーツ指導員の初級スポーツ指導員の取得に向けて勉強している。また、障害児と秩父へのツアーも企画している。健常者だけでなく、障害者にも目を向けた活動を練馬区全体で進めていくべきだと思う。

(座長) そういった活動を加速させていくための計画としたい。

(委員) 障害者の受け入れとして、各クラブの中で障害者ができるスポーツを行っている。また練馬区では無料で障害者用の水泳コースを設けた。指導はスポーツリーダーが入っている。このような事業をもっと普及・拡大させていくべきだと思う。

(座長) 普及・啓発に向けて、情報発信にさらに力を入れていきたい。

(委員) 子どもが外で遊ぶ場が減っている。学校開放の日時がバラバラであったり、自分の地域のスポーツ広場がなくなってしまうたりと外で遊ぶ施設が減っている。そのような状況で子供の体力向上もないのではないか。体育館など屋内がメインになってしまうのか。

(課長) 南大泉のスポーツ広場は地主の方のご都合もあり、閉鎖せざるを得なかった。練馬区として屋内施設のみで運動機会を増やそうという意向があるわけではない。

(委員) 練馬区民が70万人いる中で、農家が減り、マンションが増えているという状況がある。マンションのようなハコモノを建設する際に、人口密度等を考慮してまちづくりと連動して考えていくべきだと思う。

(課長) 練馬区としても、地主の方々の好意のみに頼っておらず、用地の取得などに取り組んでいる。都市計画に関する情報の把握にも取り組んでいるが、課題も多い。今後全庁的に対応を考えていく。

(委員) スポーツ医学の学習機会を設けて、区民が自発的にスポーツを通じて身体のメンテナ

ンスを行う場をつくってみてはどうか。また、練馬区としてアドバイスを行える体制を整備してほしい。

練馬区としてトップレベルのアスリートにも一般人にも対応して、スポーツに関するトップレベルの自治体を目指してほしい。

(委員) 現状を見ると子どもの体力が著しく低下しているように思う。安全だからといって屋内にいることが多いと感じている。子どもが運動して遊ぶ環境については大人がもっと考えていかないといけない。

(委員) 中学生の運動系の部活動への参加率は高い。しかし教員の異動に伴い、その環境は大きく変化してしまう。外部指導員により多少は改善されているので、そのような状況が維持していくべきだと思う。中学校のアンケートについては、実施が難しいかもしれない。

(委員) オリンピック・パラリンピックの招致については、今年の9月に開催国が決定するが、その後の支援をどうするのかは難しい議論だ。次回の懇談会では、事前に議論のポイントが絞られていることが望ましい。

(座長) 次回の懇談会はより具体的な練馬区に関するデータが提示される。今回の意見を踏まえて次回の進行を考えたい。

10. その他

(座長) 次第10について事務局に説明を求める。

(事務局) 次回の懇談会は10月4日(金)午後6時30分より、本庁舎19階1905会議室で行うこととする。

(座長) 事前資料として用意できるものがあれば、ご案内させていただくこととする。

■閉会

以上